

夏の OPEN CAMPUS 2023

高崎健康福祉大学「小論文」対策講座

—推薦入試絶対合格への方法論—

東進ハイスクール講師 宮下善紀

【1】「200字」の文章を極める

—「要約文」作成から「パラグラフ（段落）」構成へ

まずは「200字要約文」作成のプロセスからレクチャーを始めます。これは、**すべての論述の基本となる、非常に有効な方法論**ですから、きっちり理解して、しっかり練習して、ばっちり修得してほしいと思います。

たとえば、「1000字の文章を、200字に要約せよ」といった課題の場合、一体どこから手を付ければ良いのでしょうか？ 全体をまんべんなく1/5に圧縮！……な～んて簡単に出来るわけありません。では、「200字要約」作成のプロセスを見ていきましょう。

①まずは課題文を「正しく」理解する。

課題文の重要ポイントに線を引き、**筆者は何を主張しているのか**、また、この課題では**どんなことをまとめなければならないのか**、「出題者の意図」を正しく押さえましょう。

②本文から、絶対に外せない「4つの内容」を選び出す。

論文を書く場合、「1文。」＝「50字」を基準に考えていきましょう。したがって「200字の要約文」では、たったの「4文。」、すなわち「4つの内容」しか書けないということになります。そこでまず本文から、**《これだけは絶対に外せない4つの内容（a/b/c/d）》**を選びます。とくに4番目の「d＝むすび」を先にきちんと固めると全体が安定します。

③流れを意識しながら、4つの内容を「50字ずつ」でまとめる！

選んだ「4つの内容（a b c d）」を、それぞれ50字ずつでまとめていけば、自動的に200字の要約文が完成します。もちろん、各パーツの容量に応じて、[(a)50字/(b)40字/(c)70字/(d)40字]といった感じで上手に調整してください。[a→b→c→d]の「流れ」をイメージしながらまとめると、全体が美しく仕上がります。

チャレンジ課題①

『浦島太郎』のストーリーを、200字以内で要約しなさい。

昔むかしあるところに、浦島太郎という若い漁師が母親と二人で暮らしていました。ある日太郎が浜を歩いていると、子供たちが一匹の亀をいじめているではありませんか。太郎は亀を可哀そうに思い、持っていたお金を子供たちに与えて亀を海へ逃がしてやりました。

それから何日か経って、太郎が海で釣りをしていると、一匹の亀が近づいてきました。その亀は、先日助けてもらったお礼に、海の底にある竜宮城へ招待したいと言います。太郎はぜひ行ってみたいと思い、亀の背中にまたがりました。亀はしばらく海面を進むと、海底に向かって一気に潜りました。そしてあっという間に、立派な門のある竜宮城に着きました。奥へ案内されると、美しい乙姫様が出迎えてくれました。浦島太郎は大いに歓待され、鯛や平目の舞いや踊りを見ながらたくさんのご馳走を食べ、とても贅沢な時間を過ごしました。

そんな楽しい毎日が流れて、いつのまにか三年間が経過していました。太郎は一人残した母親のことが気がかりとなり、乙姫様にそろそろ故郷へ帰りたいと申し出ました。乙姫様はたいそう残念がりましたが、太郎の思いを理解して、地上へ送り出すことを決めました。別れ際に乙姫様は「決して開けてはなりません」と戒めながら玉手箱を土産に持たせてくれました。そして太郎は来た時と同じように亀の背中にまたがると、あっという間に故郷の海岸へと戻っていきました。

ところが、そこはなぜか以前の故郷とは違って見えるように見えました。歩き回ってみても、誰一人知っている者がおりませんし、自分の家があった場所には草が生い茂り、母親の姿も見当たりません。出会った人に尋ねても、誰も自分や母親のことを知らないのです。しかし話していくと、あれから何と、七〇〇年もの歳月が経過していたことが分かりました。

がっくりと肩を落とし、海岸でしゃがみ込んでいた太郎は、玉手箱のことを思い出しました。開けてはいけないと言われていたのですが、もしかすると、元の世界に戻る手掛かりが入っているかもしれないと考え、思い切ってふたを開けてみました。すると、箱の中から白い煙がモクモクと出てきて、太郎はたちまち白髪白髭のお爺さんになってしまいました。おしまい。(909字)

【解答例】

昔むかし浦島太郎は、命を助けた亀から、そのお礼として海の底にある龍宮城へと招待された。龍宮城では乙姫様から歓迎を受け、美しい舞いや沢山の御馳走に囲まれた楽しい日々を三年間過ごしてしまう。玉手箱を土産に地上に戻ると、なぜか家も母も存在せず、既に七〇〇年が経過していることを知らされ絶望する。乙姫様から開封を禁じられていた玉手箱を開けると、中から白い煙が出てきて、太郎は白髪白髭のお爺さんになってしまった。(二〇〇字)

【2】そもそも、「小論文」って何やねん？

——「作文」と「小論文」は、どう違うの？

「小論文」とは、与えられた課題について、自分の考えを論理的に《主張》する文章です。たとえば「カレーが食べたい」というのは、ただの「考え」であって、《主張》ではありません。「タバコのポイ捨ては良くない」……これでもまだ「意見」であって《主張》には至っていません。しかしここに、「自分たちが暮らす街が汚れてしまうから」という「理由・根拠」を付けることで、ようやく《主張》のレベルに到達します。それでは「タバコのポイ捨ては良くない」を少しずつ掘り下げ、カッコイイ《主張》を作ってみましょう。

「タバコのポイ捨ては良くない！」

《なぜ良くないの？》

→「自分たちが暮らす街が汚れてしまうから」

「他の人たちも気軽に捨てるようになり、街はどんどん汚れていく」

《街が汚れたら、なぜ良くないの？》

→「街が汚いと、人間の心がルーズになり、治安まで悪くなる可能性がある」

《では、どうすれば良い？》

→「市民が積極的に清掃し、ポイ捨てしにくい美しい環境を作っていこう」

「ポイ捨てはカッコ悪い行為だという美意識を、住民全員で共有しよう」

このように「あーじゃないか？こーじゃないか？」と深く考える作業が、「小論文」の神髄です。限られた時間の中で頭をフル回転し、とことん楽しんだ人が勝者になれるのです。

A [自分の意見・感想] = 「作文」△

B [A + 根拠・理由] = 「小論文」◎

それでは続いて、「小論文」を【内容】／【形式】という2大要素に分け、合格レベルの答案を仕上げるための具体的な戦略を説明していきます。

【3】小論文の「内容」を極める！

——合格レベルの、「良い内容」の小論文とは……？

A【正しい内容】の小論文を書こう！

→課題に対するキミの「理解力」がチェックされる！

「正しい内容」を書くというのは、**課題（＝出題者の意図）を正しく理解し、正しく答える**ということ、これは小論文の基本です。ここがズレたら大減点は避けられません。課題をきちんと読んで、「私はちゃんと理解できる人間です」ってことをアピールしましょう！

B【面白い内容】の小論文を書こう！

→課題に対するキミの「発想力」がチェックされる！

「面白い内容を書く」というのは、もちろん途中でダジャレをぶち込むという意味ではありません。周りの受験生たちが思いつかないであろう**斬新なアイデア**や、普段から関心を持って勉強している**健康・福祉・保健・医療・教育・農業などの専門的な知識や問題意識**を見せつけ、採点者を喜ばせちゃいましょう！

正しい内容 + 面白い内容 = 素晴らしい内容!?

「正しい内容」と「面白い内容」って、方向性が全く逆のように思えますが……キミたちが理想とすべき究極の目標は、やはり「**正しくて、面白い内容**」の小論文です。

ここへ辿り着くためには、最初に「正しい内容＝【結論A】」を考えることが大切です。この「軸」がブレると、大減点は避けられません。ところが「正しい内容」というのは、得てして「**ありきたりでつまらない内容**」だったりします。キミが最初に思いついたアイデアなんて、きっと周りの受験生たちも思いつくだろうと、謙虚な気持ちで臨んでください。

そこで、自分が考えた【結論A】に対し「**なぜ、Aなのか？**」「**そもそも、Aってなに？**」と自問自答（予想される「**意地悪な**」反論）を繰り返します！【結論A】よりもワンランク深い「**正しくて面白い内容＝【結論B】**」にまで掘り下げられたら、キミの勝利です！

①まずは【正しい内容】を考える！＝【結論A】



《**そもそも、Aってなに？**》←自問自答

②【面白い内容】にまで掘り下げる！＝【結論B】

チャレンジ課題②

あなたが理想とする「保育士像」を、800字以内で自由に述べなさい。

【結論A】

私は、子ども達の日線に立って考えられる保育士になりたいです。

→ **ありきたりでつまらない【結論A】を、
一段階深くて面白い【結論B】まで掘り下げよう！**

→ **では……あなたが理想とする【〇〇〇像】とは？
自分の目指す未来を掘り下げ、考察してみよう！**

【4】小論文の「形式」を極める

必殺！ 楽チン！ 四段落構成！！

これから紹介する「四段落構成（800字）」は、**当てはめるだけで自動的に小論文に仕上がっちゃう**という超スグレモノ！ 課題の内容・規定の文字数によって文字数や形式は変わってきますが、まずはこれをベースとして身につけましょう。

第1段落（200字）：「**結論B**」

第2段落（200字）：「**根拠（具体的事例）**」

第3段落（200字）：「**結論B**」（+ α ）」

第4段落（200字）：「**将来的展望**」

第1段落（200字）：「結論B」

先ほど掘り下げた【正しくて、面白い内容＝結論B】を、第1段落から全力で論じます。これを《いきなり結論攻撃》呼んでいます。前置きをダラダラ書き綴ると、「結局何が言いたいんだ？」「文字数を稼いでいるだけなんじゃないのか？」といった悪い印象を採点者に持たれる可能性があります。それに対して《いきなり結論攻撃》では、「結論（キミの言いたいこと）」を理解した上で、第2段落以降を読んでもらえるので、採点者の印象はかなり良くなります。そのためにも、準備段階で、「結論B」までしっかり考え抜いてから書き始めるのがポイント。60分の制限時間であれば、20分までは準備（掘り下げ・設計）に使いましょう。

第2段落（200字）：「根拠（具体的事例）」

第2段落では、第1段落で論じた「結論B」の「根拠」を、**自分の体験を踏まえて「具体的に」論じます**。考え（感想）を書くだけだったら、ただの作文です。「**考え（感想）**」に「**根拠（理由）**」が加わることで、**作文は「小論文」へと深化する**のです。「結論B」を掘り下げている段階から、「**具体的事例（ぴったりのエピソード）**」も並行して考えていきましょう。場合によっては、「**具体例**」から「**結論B**」を決めていく、というパターンもアリです。

小論文初心者は、この「**具体的事例**」を自慢げにダラダラ長く書いてしまいがちですが、印象は良くありません。できる限り「1段落＝約200字×4文」を目標として、バランスの良い美しい小論文を目指しましょう。

第3段落 (200字): 「結論B」(+α)

第3段落では、なななんと再び「結論B」を論じます。これを《結論サンドイッチ攻撃》と申します。同内容(結論B)で「具体的事例」を挟み込むことによって、小論文全体に一貫性がある……ように見せかけるテクニックです。もちろん、第1段落と第3段落が完全にソックリだとカッコ悪いので、第2段落の「具体的事例」を踏まえて「結論B」の内容がワンランク深まる(+α)のが理想です。それが難しければ、文の組み立てを入れ替えるとか、「予想される反論C(-)」と対比させるのも、有効な手段だと思います。

[たしかに、C(-)もある。~しかし、B(+)である。]

こういった「譲歩構文」を用いると、結論・主張の説得力は強化されます。

第4段落 (200字): 「将来的展望」

最終の第4段落では、「結論B」に「将来」というキーワードをプラスした200字の文章を書きます。すると、論が1段階展開したように見えて、カッコイイです。

「将来」には、「①自分の将来」「②分野(教育・医療・福祉等)の将来」「③社会(地域・日本)の将来」「④世界の将来」等があります。第4段落までの流れから最も書きやすいテーマを選び、新たな気持ちでのびのび展開してください。教科書や新聞等で培ってきた知識をフル活用し、社会に対する問題意識の高さを見せ付けてほしいところです。

《課題の文字数・形式に対するバリエーション》

「600字」の場合 (看護学科・社会福祉学科ほか)

第1段落 (200字): 「結論B」

第2段落 (200字): 「根拠(具体的事例)」

第3段落 (200字): 「結論B(+将来的展望)」

「400字」の場合 (生物生産学科・子ども教育学科ほか)

第1段落 (200字): 「結論B(+具体的事例)」 | 第1段落 「課題の要約」

第2段落 (200字): 「結論B(+将来的展望)」 | 第2段落 「自分の主張」

「200 (~300) 字以内」の場合 (健康栄養学科ほか)

一段落 (200字): 「4文(a. b. c. d.)」

※例「aである。なぜならb。しかしc。だからd。」

チャレンジ課題③

街で白杖をついた視覚障害者を見かけた時、声を掛けるかどうか戸惑う人も多いようですが、あなたはどのように接すれば良いと考えますか。800字以内で自由に論じなさい。(60分)

【積極的に声を掛けていくべき！】

【無理に声を掛ける必要はない！】

【解答例】

視覚障害者を見かけても、断られたら恥ずかしい、余計なお節介だったら格好悪い、とって声を掛けない人が多いようである。しかし、これは本人の知識不足と認識不足が大きな原因ではなかろうか。「真正面から声を掛ける」「急に身体に触れたりしない」といった声掛けと手引きの基本マナーを習得すること、そして、何よりも相手の気持ちを最優先すること。この2点さえ念頭に置けば、断られることを恐れる必要はないはずである。

私が初めて視覚障害者をサポートしたのは、高校1年生の時である。緊張しながら一緒に改札口を通り抜け、横断歩道を渡った途端、「ここまで大丈夫です」と言われて私はびっくりした。せっかく勇気を振り絞って声をかけたのに、何故こんな短い距離で解任されなければならないのかと、不満な気持ちさえ沸いてきた。しかし、冷静になって振り返ると、自分は何て独り善がりな考え方をしていたのだろうと、情けない気持ちになった。

視覚障害と言っても程度は様々で、不自由になった時期や、障害に対する考え方も一人ひとりで違うはずである。だから、サポートする際にはしっかりと意思疎通を図り、あくまでも相手の要望を最優先する姿勢を忘れないことが大切である。また、「何かお手伝いすることはありませんか？」といった、声掛けのルールを社会で共有すべきである。気軽に申し出て気軽に断れる、そうした優しいお節介の溢れる社会こそ、私は理想的だと思う。

先日「視覚障害者にとって、駅のホームと横断歩道は常に危険だ」というコラムを読み、あのサポートは間違っていなかったと確信を持つことができた。駅では、転落を防止する「ホームドア」の設置が進んでいる。その一方で、「歩きスマホ」は後を絶たず、静音性が高く危険な「電気自動車」が増えてきている。障害者の声を聞き、物質面と精神面の両方からバリアフリーを推進し、みんなが安心して暮らせる豊かな環境を目指したい。(797字)

【5】小論文の「実践力」を極める！

[1] 全学部学科共通・時間配分

全ての学部・学科に共通して、**試験時間 60 分**で**指定総文字数 800 字**に設定されています。私は常々、制限時間の3分の1を「考える時間」、3分の2を「書く時間」に充てるように指導しています。ですから全学部学科共通して、

20分 = 「考える時間」 / 40分 = 「書く時間」

このバランスを基準として、上手に時間を分配してください。「考える時間」が短いと、つまり「結論A」から「結論B」への掘り下げが不十分だと、書いている途中でネタが切れて手が止まってしまう。逆に「考える時間」を無制限に引き延ばしてしまうと、**書きたい内容が増えすぎて收拾がつかなくなる**ことがしばしば起こります。最初の20分間は原稿用紙に手をつけず、アイデアをいっぱい出して必死に掘り下げましょう。（ちなみに、40分で800字ということは、**1分間に20字ずつ書き続ける**ペースとなります。）

[2] 学部学科別・出題形式（令和5年度）

農学部・生物生産学科

問題1：400字《図表・テーマ型（内容理解）》

問題2：200字 / 50字 / 150字《データ型（内容理解+自分の考え）》

人間発達学部・子ども教育学科

設問1：400字《課題文型（内容理解）》 設問2：400字《課題文型（自分の考え）》

健康福祉学部・社会福祉学科

設問1：200字《要約》 設問2：600字《課題文型（自分の考え）》

健康福祉学部・医療情報学科

200字 / 300字 / 300字《課題文・データ・テーマ総合型（思考+自分の考え）》

健康福祉学部・健康栄養学科

問題1：280字《要約型》

問題2：220字《要約型》 / 300字《課題文型（自分の考え）》

保健医療学部・理学療法学科

問題：800字《課題文型（要約+自分の考え）》

保健医療学部・看護学科

問1：《データ問題》 問2：800字《課題文+データ型（内容理解+自分の考え）》

[3]「データ・図表型」小論文対策

《課題文型》

= 課題文を読んで、自分の考えを論理的に述べられるか？

《要約型》

= 課題文の要点を制限字数(200字)以内にまとめられるか？

《テーマ型》

= あるテーマ(主題・トピック)について深く考察できるか？

《データ・図表型》

= 「データ・図表・グラフ」の意図を読み取れているか？

高崎健康福祉大学の推薦小論文では、学部・学科ごとに《課題文型》《要約型》《テーマ型》《データ・図表型》など、様々なタイプが出題されます。ここでは、とくに苦手意識を持つ人が多いであろう《データ・図表型》小論文攻略のコツをまとめていきたいと思います。

①「正しく」読み取り、「大胆に」掘り下げる！

とにかく、データ・グラフ・図表を「正しく」読み取ることが最優先の課題となります。出題者は、キミたちに「まったく新しい事実」を発見してもらいたいのではなく、「**あらかじめ想定している事実(=メッセージ)**」に、ちゃんと気付いてほしいわけです。すなわち、データの「数字」を「言葉」に翻訳し、隠された「メッセージ」へ返事をしていくのです。

②「増加・減少」「数値の違い/変化」「全体での割合」！

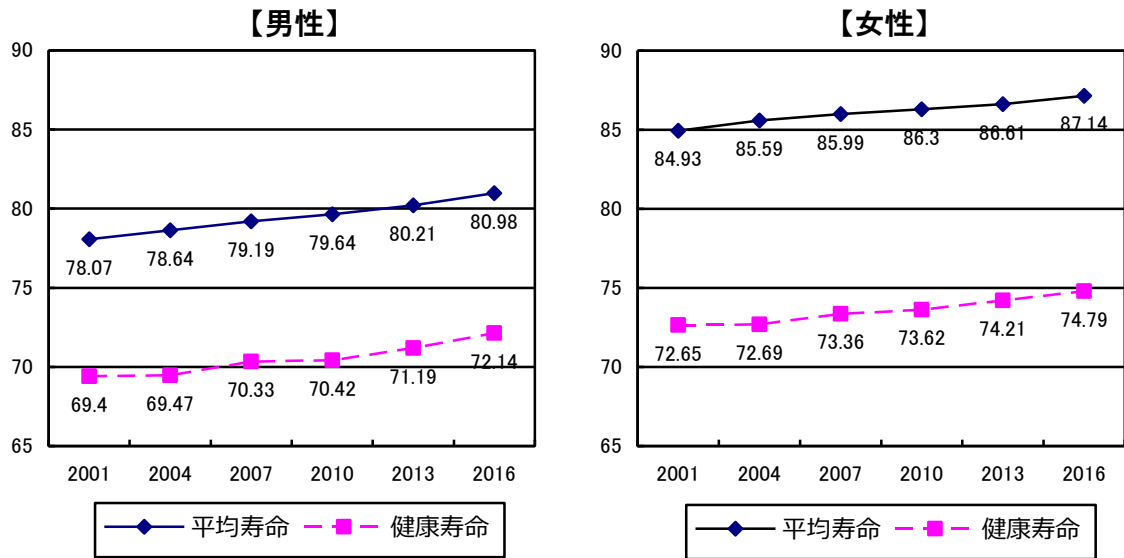
データ・グラフでチェックすべきは、以下の三点です。第一に「**数値の増加(最大値)・減少(最小値)**」に注目すること。第二に「**二つの数値の違い/変化のポイント**」を把握すること。第三に「**全体の中での割合**」を確認すること。たとえば、お笑い芸人A・B・Cの中でAがダントツの一番人気だとしても、国民全体の5%にしか知られていないとすれば、まだまだ「売れている」とは言えません。全体を眺める視点も忘れないように注意しましょう。

③「どのグラフから、なにを読み取ったのか」を明記する！

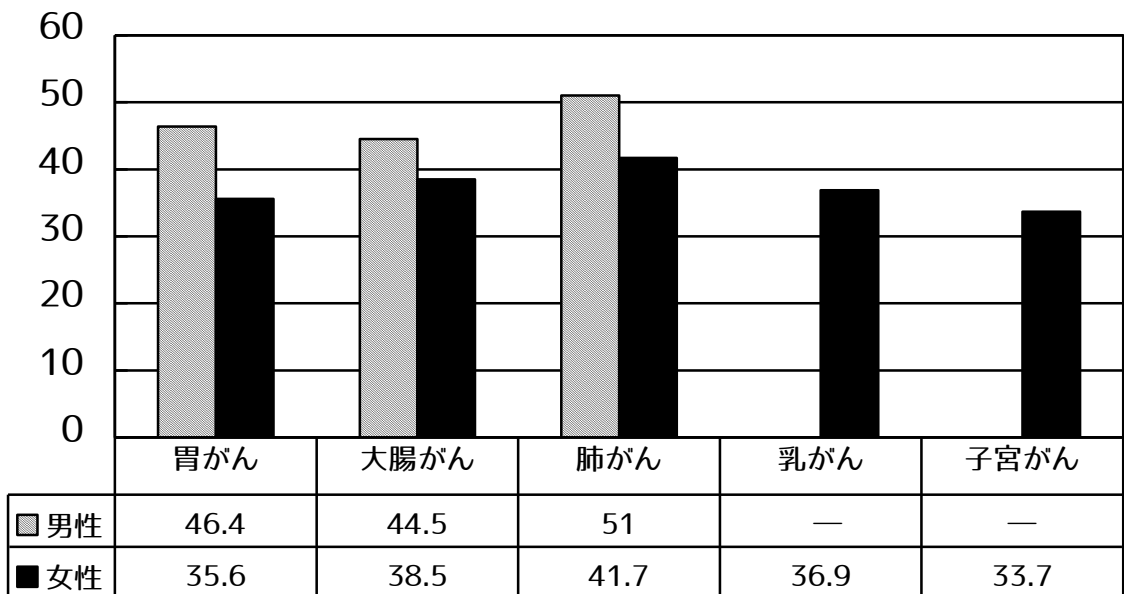
これは《グラフ・図表》取り扱いの基本作法です。「全体的に増加しているように見える」などと大雑把にまとめるのではなく、「**グラフ①より、〇〇〇〇ということが分かる。**」「**Aは××××に対して、Bは△△△△である。以上が、グラフ①から読み取れる事実である。**」というふうに、グラフ・図表と記述の対応関係を、必ず明記してください。

チャレンジ課題④

次の図①・②を読み取り、あなたの考えをそれぞれ 300 字以内で書きなさい。



【図①／我が国の平均寿命と健康寿命の差】



【図②／男女別がん検診受診率（40～69歳）】

[4] 小論文の「知識力」——用語からテーマ、問題意識へ

最後は「知識」のお話です。高崎健康福祉大学の推薦入試小論文では、各学部・学科ごとに専門的なテーマについて出題されます。用語を知らなければ書けないわけではありませんが、知っている方が、**より深くて面白い答案を、しかも素早く仕上げられる**のは自明の理です。たとえば、保健医療学部を受験される皆さん、以下に並べた医療系の「用語」を、いくつ知っていますか？ また、これらの用語を「テーマ」として、どんなことが語れますか？

《保健医療系・小論文頻出用語30》

- | | |
|----------------|--------------|
| ①アフターコロナ | ②アドボカシー |
| ③医師・看護師不足 | ④院内感染 |
| ⑤インフォームド・コンセント | ⑥EBM |
| ⑦AIと医療 | ⑧環境ホルモン |
| ⑨キュアとケア | ⑩QOL |
| ⑪健康寿命 | ⑫再生医療（iPS細胞） |
| ⑬社会的入院 | ⑭少子高齢化 |
| ⑮生活習慣病 | ⑯セカンド・オピニオン |
| ⑰ソーシャルワーカー | ⑱尊厳死・安楽死 |
| ⑲代替医療 | ⑳代理出産 |
| ㉑ターミナルケア（ホスピス） | ㉒地域医療 |
| ㉓チーム医療 | ㉔着床前診断／受精卵診断 |
| ㉕認知症 | ㉖ノーマライゼーション |
| ㉗プライマリ・ケア | ㉘薬剤耐性 |
| ㉙ヤングケアラー | ㉚老老介護 |

①「用語」を暗記！

=図書館や書店で専門書を手に入れ、まずは専門用語を暗記していこう！

②「テーマ」で理解！

=「高齢化社会」「チーム医療」といったテーマごとに知識を整理しよう！

③「問題意識」を育む！

=新聞やインターネットで専門分野に関するニュースやコラムを集めよう！